

## 加糖飲料への課税により購入量が 6%減少

メキシコでは、糖尿病や肥満の罹患率が高く、2014年より加糖飲料に1Lあたり1ペソの税金を課してしる。本研究では、メキシコの人口5万人以上の53都市の住民205,112例を対象に観察研究を実施し、加糖飲料への課税前と課税後の消費量の違いについて調べた。

2014年の課税・非課税飲料の購入量を比較し、課税前の傾向を基に、課税されなかった場合の予測購入量を推算し、実際購入量と比較した。家族の年齢や性別、社会経済的水準（低・中・高レベル）などを変数に設定し、分析した。その結果、2014年の課税がない場合の予測購入量と比べ、課税対象飲料の実際購入量は平均6%(-12mL/人/日)減少した。減少率は加速度的に高くなり、2014年12月には12%の減少となった。3つの社会経済的水準のいずれの群でも課税飲料の購入量は減少したが、低レベル群で最も大幅に減少し、2014年平均で9%の減少、2014年12月には17%の減少となった。一方でボトル入りの水の購入量は増加し、非課税飲料の購入量は、加糖飲料の課税がなかった場合の予測値と比較して4%増加した。

今回の結果から、メキシコにおいては加糖飲料に対して課税することで、その購入量が非課税の場合と比べ6%、1日1人当たり12mL減少することが示された。

出典：British Medical Journal. 2016; 352: h6704